

(2) 授業デザインと「見方・考え方」
「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進める際には、子ども

に付くのかという、教科等を学ぶ本質的な意義を明確にする議論が展開され、各教科等において育成を目指す資質・能力が三つの柱に基づき整理されるとともに、「見方・考え方」も教科等ごとに整理された。「見方・考え方」は、「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすもの」とされ、その教科等の本質、その教科等を学ぶ意義とも重なりと言えらる。さらに、「見方・考え方」は「教科等の教育と社会をつなぐ」、言い換えれば、子どもたちが大人になって生活していく際にも重要な働きをするものである。

Ⅱ 「見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する授業を実現する上で配慮すべき事項

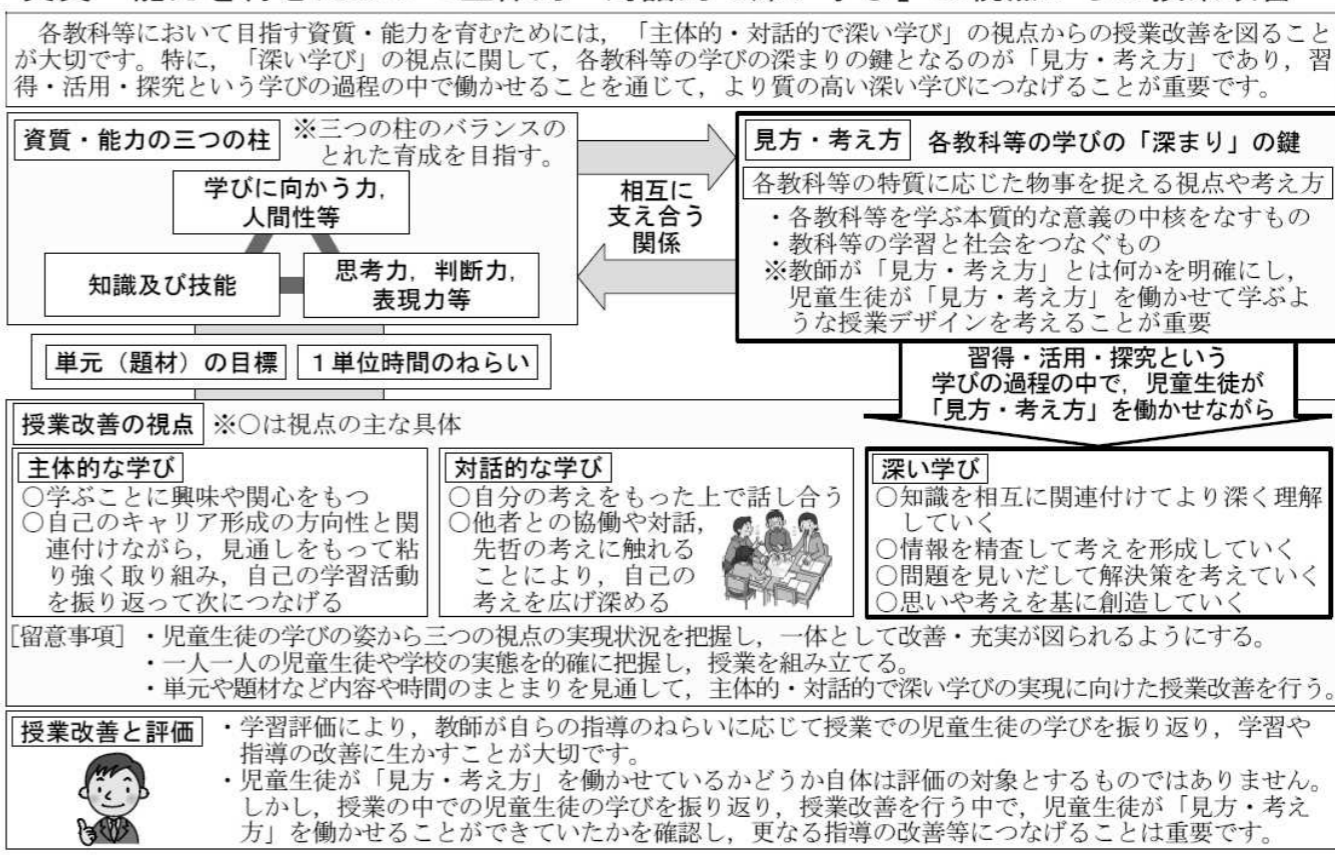
(1) 学習指導要領の各教科等の目標と「見方・考え方」
まず、学習指導要領の教科等の目標に「見方・考え方」を働かせることが含まれている(※1)ことを確認する必要があります。
そして、各教科等の学習指導要領の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」1 (1)において、「見方・考え方」を働かせる授業を実現するための学習活動の工夫について記載されている(※2)。「子どもたちが学習や人生において『見方・考え方』を自在に働かせられるようにすることにこそ、教員の専門性が発揮されること求められる」とされ、「深い学び」の視点から授業改善をし、子どもたちの「見方・考え方」を働かせる授業に迫ることが、教師に期待されている。

【参考】
小学校学習指導要領(平成二十九年告示) 解説 総則編
初等教育資料2017年11月号
初等教育資料2019年9月号

(3) 学習評価と「見方・考え方」
観点別学習状況の評価の対象はあくまでも各教科等で育成を目指す資質・能力をどの程度身に付けているかどうかであり、「見方・考え方」を働かせているかどうか自体を評価の対象とするものではない。
しかし、教師が自らの指導のねらいに応じて授業の中で子どもの学びを振り返り、授業改善を行う中で、子どもたちが「見方・考え方」を働かせることができているかを確認し、教師の更なる指導の改善等につなげることは重要である。

※1、※2、※3……資料2参照(各教科のみ作成)
【参考】
小学校学習指導要領(平成二十九年告示) 解説 総則編
初等教育資料2017年11月号
初等教育資料2019年9月号

単元(題材)及び授業構想のポイント
資質・能力を育むための「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善



音楽 指導事項を踏まえ、資質・能力の育成を目指した授業づくりのポイント

新学習指導要領では、音楽科の内容は資質・能力に対応して構成されており、内容の各事項(指導事項)を踏まえた授業を行うことで、資質・能力の育成を目指すことができます。以下に、指導事項を踏まえ、「思考力、判断力、表現力等」(各事項アに対応)、「知識」(各事項イに対応)の育成を目指した授業づくりのポイントを示します。

(題材例) 小学校第4学年 題材名「曲のとくちょうをとらえて表現しよう」 教材名「とんび」
題材で扱う事項「A表現 歌唱ア、イ、ウ(イ)、【共通事項】ア」
児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素「旋律、強弱、呼びかけとこたえ」

【共通事項】ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること

歌唱イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと

歌唱ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと

「知識」の育成を目指し、児童が、旋律、強弱、呼びかけとこたえを思考・判断のよりどころとして、「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて、気付くことができます。

「思考力、判断力、表現力等」の育成を目指し、児童が、気付いたことを生かしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができます。

T: 3段目を歌ってみてどんな感じがしましたか。
C1: 2羽のとんびが呼びかけ合っている感じがしました。
T: 曲のどんな特徴から、そう感じましたか。
C2: 同じ歌詞や旋律が4回繰り返されているところからです。
T: なるほど。では、旋律の動きに合わせて、手を動かしながら歌い、確認してみましょう。
C3: 2、4回は音の高さが低くなっているの、離れたところから、呼びかけに答えている感じがします。
T: では、歌詞の内容からイメージしたことを基にして、とんびの気持ちになって、ペアで「呼びかけ」と「こたえ」に分かれて歌ってみましょう。

Point! 児童が、感じ取ったこと理由を音楽の構造や歌詞の内容の視点から捉えることができるよう、発問等を工夫します。また、個々に聴き取ったことを、体を動かす活動などによって視覚化し、音楽活動を通して確かめ、共有を図ることが大切です。

T: みなさんのイメージしたことが、聴いている人に伝わるように歌うには、どのように表現を工夫したらよいでしょう。ペアで歌いながら考えてみてください。
C4: 「呼びかけ」を強く、「こたえ」を弱く歌ったら、本当に呼びかけ合っている感じになったね。
C5: そうだね、遠ざかっていく感じも表現したいな。
C4: 「だんだん弱く」歌ったら、雰囲気が出てきたね。
C5: 「強く、やや弱く、やや強く、弱く」歌ったら、呼びかけ合いながら遠ざかっていく感じになってきたね。
T: C4さんたちのペアは、強弱を工夫することで、自分たちのイメージを伝えることができそうですね。

Point! 表現の変容を捉え、そのよさを具体的に伝えるなど、思いや意図をもって活動に取り組むことで歌唱表現が高まったことを価値付けます。また、全体で共有させることで、他の児童が自らの表現の工夫を生かし、思いや意図を膨らませていくことができます。

資質・能力を育成する「見方・考え方」を働かせることを通して

資質・能力を育むための「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進めるに当たり、特に「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」である。「見方・考え方」は、新しい知識及び技能を既にもっている知識及び技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力、判断力、表現力等を豊かなものとしたり、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりするために重要なものであり、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが求められる。

この「見方・考え方」とは何なのか、「見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する授業の表現に向けてどのようなことに配慮すればよいのだろうか。

Ⅰ 「見方・考え方」とは何か

(1) 「見方・考え方」の定義
学習指導要領総則において、「各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方」と定義されている。言い換えれば、各教科等にはそれぞれ学習対象があるが、その学習対象にどのようにアプローチしてどのような視点や考え方で捉えるのかという教科等の本質に迫るための視点や考え方が、「見方・考え方」である。従来から数学や理科などの一部の教科においては類似の概念が用いられてきたが、今回の学習指導要領では、そうした従来の整理とは別に、全ての教科について、再整理している。

(2) 「深い学び」と「見方・考え方」
今回の改訂における審議では、「主体的・対話的で深い学び」を実現する上で、各教科等の資質・能力の育成の観点から「深い学び」の視点は極めて重要であるとされてきた。「深まり」を欠くと表面的な活動に陥ってしまうという指摘もあつたからである。

また、「主体的な学び」や「対話的な学び」はその趣旨が教科共通で理解できる視点であるのに対し、「深い学び」の在り方は各教科等の特質に応じて示される必要があるとされ、各教科等の学びの「深まり」の鍵となるのが「見方・考え方」であるという見解が示された。

(3) 「見方・考え方」と資質・能力の三つの柱の関係
学習指導要領において「見方・考え方」は、育成を目指す資質・能力の三つの柱とは別の概念として整理されている。「見方・考え方」は「深い学び」の鍵になるものとされているが、これは「見方・考え方」を働かせることによって資質・能力が育まれるということである。すなわち、各教科等の学びを通じて子どもたちが資質・能力を獲得する過程で、子どもたちが「働かせる」ものである。また、「見方・考え方」を働かせることで資質・能力が更にも育まれたり、新たな資質・能力が育まれたりする。またそれによって「見方・考え方」が更に豊かになるように、「見方・考え方」と資質・能力は相互に支え合う関係にあるとされている。

(4) 「見方・考え方」と当該教科等を学ぶ意義
今回の改訂においては、なぜそれを学ぶのか、それを通じてどのような力が身